

令和5年第4回東北町議会定例会会議録

令和5年12月5日（火曜日）午前10時00分開議

○議事日程（第2号）

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

◎一般質問

○議長（岡山粕男君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告は4名であります。

通告順に発言を許します。

2番、斗賀高太郎議員は、一問一答方式による一般質問です。斗賀高太郎議員の発言を許します。

〔2番 斗賀高太郎君登壇〕

○2番（斗賀高太郎君） 皆さん、改めましてこんにちは。お昼も終わったところで、ちょっと眠気が来ているかと思いますが、目の覚めるような端的で分かりやすい一般質問をやらせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、通告に従いまして、一般質問のほうをさせていただきます。私からは、東北町の認知度向上について3つの質問をさせていただきます。

1つ目、現在観光向けのガイドサイトやパンフレットはありますか。

2つ目、今年の湖水まつりの花火大会での大まかな集客数をお知らせください。

3つ目、道の駅の足湯に関して、いで湯の里のPRと道の駅のさらなる集客が目的だと認識していますが、一般的な集客材料としては弱いと感じます。集客やPRをしていく上で、町長としてはどのような特色を持った足湯をお考えでしょうか。

以上、3つになります。よろしく願いします。

○議長（岡山粕男君） 町長。

〔町長 長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君） それでは、2番、斗賀高太郎議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項1の東北町の認知度向上に関してお答えをいたします。質問要旨の1点目、現在観光向けのガイドサイトやパンフレットはありますかについてであります。本町の観光向けのガイドサイトにつきましては、町のホームページの観光イベントサイトにおいて、各種イベントなどをご紹介しているところでございます。また、令和2年度に商工観光課で作成した町観光ガイドブック、令和4年度に企画課で作成した移住ガイドブックなどがありますが、観光ガイドブックにつきましては今年新たに3,000部を増刷し、移住ガイドブックについても現在300冊ほどありますので、必要に応じて更新及び増刷することとしております。

また、これらのガイドブック、観光ポスターなどは、役場庁舎内及び出先機関内に提示しているほか、パンフレット同様、各関係機関等へ送付し、活用をしておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問要旨の2点目、今年の湖水まつりの花火大会での大まかな集客数をお知らせくださいについてであります。今年の湖水まつり花火大会での集客数は約3万人を数えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問要旨の3点目の道の駅の足湯に関して、いで湯の里のPRと道の駅のさらなる集客が目的だと認識していますが、一般的な集客材料としても弱いと感じます。集客やPRしていく上で、町長としてはどのような特色を持った足湯をお考えですかについてであります。道の駅おがわら湖は道路利用者のための休息機能、道路利用者や地域の情報を提供する施設としての情報発信機能、そして道の駅を接点に活力ある地域づくりを共に行うための地域連携機能として活用されており、道の駅を拠点とした情報発信を充実させ、個性豊かなにぎわいのある空間をつくり出すことにより、活力ある地域づくりがなされるものと考えております。議員のおっしゃる特色を持った足湯につきましては、現在道の駅にご来場された方々の意見及び設置市町村の意見などを参考にし、東北町らしいにぎわいのある、特色のある足湯を検討しているところでござい

ます。

また、皆さんのご指摘のように、実際つくっても誰も来ないではないかという事のないように、いで湯の里らしい特色のあるコンテンツを加えた中で、地域の憩いの場となるようしっかり計画的に進めてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（岡山粕男君） 斗賀高太郎議員。

○2番（斗賀高太郎君） ご回答ありがとうございます。では、再質問させていただきます。

町長に伺います。現在当町が行っている情報発信やその手段について、町の様々な観光、イベント行事などを町内外の方々にしっかり届くような情報発信をするために、どのような取組をお考えでしょうか。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 斗賀議員にお答えをいたします。

午前中のご質問にもありました。やはり発信ということになるかと思えます。主な方法としては、災害時や緊急時の防災行政連絡の一つでございます、いわゆる東北町の部分では広報紙であったり防災メールであったり、またはやはり観光のほうとなりますとホームページや、とりわけ若い人たちに利用していただきたいということで、インスタグラム、SNS、またフェイスブックなど、そういった部分で情報発信に取り組んでいるところでございます。

また、ホームページ内で観光やイベント情報などについては、その都度更新をしながら、例えば月々のイベント情報であったり、新しい情報の展開をしたり、発信をしたり、また四季折々の観光の名所であったり、そういったものも情報発信をしているところでありますし、また上十三地域ですが、上十三地域で構成している定住自立圏観光ガイドホームページにおいても、東北町として情報を発信しているところでございます。

そのほかに、実は11月の上旬、都内で行われた観光のセミナーございました。これは青森県が主催でございましたが、そちらのほうでプレゼンの機会がございまして、当町としては商工観光課の担当とともに伺った際に、そのプレゼンの場では今回は小川原湖の小川原湖公園、そしてふれあい村におけるキャンプ

と、また千本桜など、インスタ映えするような様々な風景があるということをご紹介させていただき、また午前中の質問にもあったように小川原湖の大変おいしい水産物等も併せてご紹介をさせていただいたところでもあります。また、新たに東京、有楽町にある交通会館、こちらに移住センターがございいますが、こちらのほうも折に触れて訪問をさせていただいた際に、やはり東北町のそういったPRの力の注ぎ方がちょっと弱いなというふうに感じましたので、その移住センターとの連絡も密にして、パンフレットや移住ガイド、そういったものをしっかり置かせていただきながら、今後じきじきに職員のほうにも足を向けるように指示して、そこを強調してPRするように働きかけているところでございます。

午前中の質問にもありましたけれども、やはり情報をどんどん、どんどん発信していかななくてはならない、そういった中で議員の皆さんからのご理解、ご協力をいただいて、様々な媒体を使って東北町の魅力を発信してまいりたいと思っておりますので、斗賀議員にもぜひともそういった部分でご意見をいただきながらご協力をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 斗賀高太郎議員。

○2番（斗賀高太郎君） 回答ありがとうございます。移住センター等は、やはり東京からどこに移住しようかなという方たちが来る場なので、そういうところにガイドマップであったりというのを置くというのは、一つすごく有効な手段だと思います。

先ほどちょっと回答の中にもありました。新聞のほうでも掲載されておりました11月の11から12日にかけて、東京の上野公園で青森人の祭典が行われて、2日間で約11万人の来場者があって、かなり盛大に開催されたと記載されておりました。我が町も食と文化と観光のPRを目的に参加してきたようで、東奥日報さんなどにも町長のPR活動の様子が掲載されておりました。そこで来場者の方々には、どのような町のPRと情報発信してきたのかというのを具体的に何か伺えればなと思います。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

この青森人の祭典は毎年恒例になっておりまして、コロナでちょっと休んだ時期もあったのですが、昨年からまた再開をして、今年も行いました。こちらのほうでは、東北町のいわゆる販売促進協議会の方々と一緒に上野のほうで、東北町の水産物であったりお米、そしてニンニクやゴボウなどの特産品、そういったものを販売をしながら、お客さんたちと対面販売をしながら、また県内参加市町村の市長によるPRタイムが5分程度設けてある、そういったイベントでございました。私としては、トップセールス、これは私の公約でもありますけれども、そのトップセールスマンとして現地に赴き、5分間のPRタイムで小川原湖のこと、小川原湖の特産品、水産物のこと、なおかつ当地域が酪農畜産の産地であり、広大な緑の大地が広がる大変農業が盛んな地域だということをお越しいただきました。とりわけそういった部分の中では、お越しいただいたお客様の中でも、やはり青森のニンニク、ゴボウというのは大変有名であり、また今年本格的にデビューしたお米のはれわたりも好評でありまして、大変販売をしたということにぎわったと思います。

そして、来たお客様の中には関東在住の方々が多いのですが、とりわけ青森県に在住した方、かつ東北町出身の方々にも多数お越しをいただきました。東北町出身の方々には、大変勇気づけられるお言葉も頂戴いたしましたし、ぜひとも青森県人会東北町支部もつくってほしいと、そういった激励の言葉もいただいたところでございます。私たちにしてみても、東北町出身の皆さんというのは、この東北町をPRする本当に確かな信頼できるインフルエンサーであると思います。私たちがしょっちゅうしょっちゅう消費地やそういったところに赴いて、PR活動はなかなか難しいかもしれませんが、東北町出身の方々にインフルエンサーになってもらって、ぜひ東北町の予算をPRしてもらい、またそういった方々に導いていただいて東北町に観光で訪れてもらい、やはりそういった方々と協力して進めること、そういったことが必要になると思います。この青森人の祭典に私たちが参加をする意義というのはたくさんありますし、また議員の皆さんでもぜひそういった部分、こういったものか参加してみたいという方があれば参加していただきたいなと思いますし、一般の方々でも、やはりそういった東北町と一緒にPRしたいという思いがある方であれば、参加していただければ大変ありがたいなと思っておりますので、お願いも含めて状

況をお伝えさせていただきます。

以上であります。

○議長（岡山粕男君） 斗賀高太郎議員。

○2番（斗賀高太郎君） ありがとうございます。町長自らトップセールスとして出向かれて、大変ご盛況だったようで、一町民としても大変うれしく思います。東北町の認知度向上に向けて、我々も含め、町の様々な観光、イベント、行事などを町内外の方々にしっかり届くように、情報発信、様々なツールを用いながら、今後も行っていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

続いて、湖水まつりの集客数に関しての再質問を行わせていただきます。集客数ですが、約3万人ということですが、これだけの人数が出入りしているわけですから、飲物、食べ物などの出店事業者が少なければ、やはり来ていただいた方たちの満足度が低く、リピート率の低下につながってしまうような気がします。今年の出店事業者は何店舗だったかお伺いいたします。

○議長（岡山粕男君） 商工観光課長。

○商工観光課長（甲地尚彦君） それでは、お答えいたします。今年の花火大会の出店業者は何店舗かということでございます。町内の業者で5店舗ということでございます。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 斗賀高太郎議員。

○2番（斗賀高太郎君） ありがとうございます。では、再度課長のほうにお伺いいたします。

今5店舗という説明がありましたが、非常に少ないのかなと残念に思います。私も現地でちょっと見せていただきましたが、出店が少ないために、お客さんがすごく長蛇の列ができていて、出店側も対応にすごく困っていたのかなと、四苦八苦していたように感じております。来年は、出店を増やすような予定などはございますでしょうか。

○議長（岡山粕男君） 商工観光課長。

○商工観光課長（甲地尚彦君） お答えいたします。

来年は出展を増やす予定があるかどうかというご質問でございますが、議員のおっしゃるとおり、やはり花火大会といえば見て楽しんで、食べて楽しんで、

飲んで楽しんで、ご来場者が好きな食べ物を選ぶ選択肢が多ければ多いほど、よりいい花火大会になるものと感じております。来年は、出店を増やす計画を予定してございますので、ご理解を賜りたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 斗賀高太郎議員。

○2番（斗賀高太郎君） ありがとうございます。ぜひとも出店、来年度は増やしていただいて、来年また来たいなと来ていただいたお客様に思ってもらえるような花火大会にさせていただきたいなと思います。

続いて、町長にお伺いさせていただきます。花火大会の件でもう一点ちょっとお聞きさせていただきます。例えば青森のねぶた祭りでは、大体約20万円程度で、記憶に残る特別なひとときを過ごせる空間として特別観覧席を用意して、県内産の食材にこだわった旬を感じられるお食事などを提供しておりますが、東北町の花火大会においてもこのような特別観覧席を用意して、お客様をもてなすお考えがあるかどうかお伺いさせていただきます。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 斗賀議員にお答えをいたします。

ただいまの質問、特別観覧席というふうな質問でございました。まずもって、特別観覧席もさることながら、今斗賀議員からいろいろご質問があった、例えば店舗数であったり、前段のご質問で訪れたお客さんが3万人もいたと、そういった中で店舗が5店舗だったということ、総じてやはりそういったものも楽しみに来ているお客様をしっかりとてなしていくという意味では、斗賀議員ご指摘のようなこと、それは本当にしっかり考えていかななくてはなりませんし、私も町民の方から、特に若い方から直接、もう本当に花火大会はすばらしかったけれども、ちょっとこういった部分はぜひとも改善してほしいと、特に若い方々がそういったことを提案してくれました。やはり皆さんが、老若男女問わず来て、やはり飲んで食べて楽しんでもらうために何らかのコンテンツが必要だとするならば、議員がご指摘のような部分、担当課と話し合って、ぜひとも前向きに検討していきたいなと思います。

その上で、特別観覧席のお話でございます。実は、この花火大会、3万人も訪れている。聞くところによると、例えば予算の関係だったり、様々な事業を

減少させているという自治体の全国的な傾向により、花火大会そのものというのは減少しているそうです。県内においても、そういうふうにも伺っております。そういった中で、この小川原湖の花火大会、本当に青森県を代表する夏の風物詩になりつつあると思います。その上で、やはり議員がご指摘いただいたような特別観覧席等、新たなコンテンツの工夫というものが必要になるかと思えます。

ちなみに、私日の本中央たいまつまつりに参加をした際には、その日の本中央たいまつまつりにおいては旅行会社の方々がJRを使って来ていただいて、電車に来ていただいて、特別席を用意してお弁当つきでという旅行パックで、席をしっかり用意してやっている、そういったパックづくりでやっているところもあって、大変ありがたいし、そういったものはすばらしい、いいアイデアだなと思いました。

ともすると湖水まつりも、今回電車で来た方も多かったと思います。そういった部分で、旅行会社であったり、そういったものとタイアップして、何らかのそういった新しいコンテンツをつくる、ないしは様々ご協力いただいた方、また都会から、遠くからも来ていただいた方々に、ねぶたの栈敷席のようところで特別な思いを味わっていただく、そういったものに対して消費者が求めているニーズというのが出てきているというふうにも伺っております。やはり今までのことをただ踏襲するだけではなくて、ちょっと特別感であったり、そういったものをイベントの中で創出していくのも私たちのアイデアだと思っております。ぜひともそういったアイデアをどんどん、どんどんいただきながら、担当課でもどういったものかいろいろと検討しながら、前向きに進めてまいりたいと思いますので、ご理解願いたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 斗賀高太郎議員。

○2番（斗賀高太郎君） ただいま町長のほうから前向きに検討していただけるということで、先ほどお話しいただきましたように旅行会社だったりとかJR、あとは青い森鉄道とかと連携しながらというのもいいと思います。ぜひとも私のほうでお話しさせていただいた町内食材のPRの場にもすごく有効なのかなと思っておりますので、ご検討いただければなと思います。

最後、足湯に関してですが、こちらは一度意見ということでお話しさせていただきますが、当町において道の駅おがわら湖を中心とした様々な観光イベントPRというのは、地域の方々への情報発信機能の最先端と言えるのかなと思います。先ほど町長から、道の駅というのは情報の発信の場でもあるということと、あとは地域の憩いの場でもあるので、特色のある足湯を検討しているというお話だったので、まさに現在計画中の足湯が何か特色のあるものであって、道の駅おがわら湖にしかない、近隣の道の駅にはないものをPRできればなど思っております。ますます来場者が増えて、活性化につながるものと考えておりますので、ぜひそちらはしっかりとお考えいただければと思います。よろしく申し上げます。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（岡山粕男君） これで2番、斗賀高太郎議員の一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（岡山粕男君） 以上で本日の議事日程は全部終了しました。

本日はこれで散会いたします。

（午後 1時53分）